

# 男性高齢者の孤立防止と社会参加



福祉心理学科 川村 岳人

## 孤立しがちな男性

- ・ さまざまな調査において、**男性** は、女性に比べて  
**孤立** しやすいことが指摘されている  
特に **性別役割規範** が強い男性ほど、孤立しやすい  
(弱みをみせてはならない、感情を出してはならない)
- ・ **男性** は、頼れる相手が **配偶者** のみの人が多い  
いま孤立をしていなくても、将来、配偶者との離別や  
死別によって、孤立のリスクが高まる可能性も

## 男性の社会参加を促すために

- ・（ごく親しい人を除いて）**弱みをみせたがらない**という男性の特徴を踏まえて検討する必要がある



- ・ただ集まるための場に出てくるよう呼びかけるだけでは、**参加しよう**という**動機**が生まれにくい
- ・男性が**参加したい**と思えるような**場**をつくり出すことが不可欠となる

## 求められる“場”（1）

- ・被災地での例

東日本大震災の仮設住宅でベンチを組み立てる必要が生じたとき、それまで閉じこもりがちだった男性たちが、腕まくりして、トンカチを握って外に出てきた。



- ・人の役に立つような**役割**があれば、みずから進んで社会参加をする

**弱み**にだけ注目するのではなく、それぞれの**強み**を丁寧に探そうとする視点が重要

## 求められる“場”（2）

- 農作業の例

思うように仕事が見つからず働いていない人たちが、定期的に共同作業をするうちに“仲間意識”をもち、少しずつ身の上話をするようになった。



- 受け入れられているという感覚をもつことで、自分の弱みをみせやすくなる

孤立を防ぐためには、特定のグループを対象にすること、ネガティブな感情を共有することが重要

## 参考文献

- 石田光規（2011）『孤立の社会学—無縁社会の処方箋』勁草書房。
- 川村岳人（2014）「社会的孤立の関連要因—中年齢層と高齢者層の比較分析—」『日本の地域福祉』27：69-81。
- 湯浅誠（2012）『ヒーローを待っていても世界は変わらない』朝日新聞出版。